

夢に向かって挑戦する子ども

令和7年度

11月7日 No.9



かかしでつながる 相模湖こども園・千木良小学校

毎年9月に開催される『若あゆかかしフェスティバル』。市内にある保育園・こども園・幼稚園・学校等の子どもたちが制作したアイデアいっぱいのかかしが、若あゆ水田を守ります。

今年度、異年齢活動として、相模湖こども園の年中・年長児がかかしづくりを行いました。完成した3体のうち、若あゆ水田を守る1体を投票で決めた子どもたち。あとの2体をどうしようかと担任が悩んでいたとき、7月に行われた教育課程研修会（生活科部会）で千木良小学校の先生とお会いしたとのこと。協議の中で相談したところ、小学校の農園に立てていただけることに。子どもたちの2体のかかしが千木良小学校の農園の作物を守るようになりました。



先日の遠足の帰り道、千木良小学校に寄り、みんなでかかしを見に行った子どもたち。「鳥から守っていますか？」との質問に、「守ってくれているよ！」と返事をもらい、安心した表情を見せていたそうです。



同じく連携校であり、園から近い桂北小学校とは交流も盛んに行っていますが、千木良小学校は遠く、連携が難しいのが課題でした。『幼保小連携』という、『年長児と1年生』というイメージがあるかもしれませんが、その名の通り、幼稚園・保育園・こども園・小学校が連携することを指し、子どもの成長を組織的に支えることを意味します。相模湖こども園・千木良小学校のような、園校がつながる工夫・取組によって、担当者や担当学年だけではなく、全体へと理解が広がっていくのではないのでしょうか。

相模湖こども園は連携校である北相中学校とも交流しており、長年、3年生が家庭科の学習として、手作りおもちゃで園児と遊んだり、触れ合ったりしています。

様々な連携の形を参考にしながら、各地区で工夫し、取り組んでいきましょう。